

## (一財) 日本ヘルスケア協会から

発行：日本ヘルスケア協会 事務局

今回は3月8日の前回定時記者会見以降の動きについてご報告いたします。

1. JAH1と業務提携契約を結んでいる(一社)次世代FVC研究所が農業イノベーションを開催しました  
オンラインセミナーの開催に関して、令和3年2月にJAH1と業務提携契約を締結している同研究所は、4月9日(土)午後、赤坂スターゲートプラザ会議室で、農業イノベーションセミナー「食の大ピンチをチャンスに変えて!新しい農業&フードバリューチェーンの変革」(協力:農業ジャパン、日本健康食育協会、後援:日本ヘルスケア協会)を開催し、大きな反響を呼びました。すなわち、約2年間にわたるコロナ禍の進行、またウクライナへのロシアの侵攻による原油、穀物価格の高騰により、フードバリューチェーンは大きなダメージを受けており、その危機はさらに深まっているとの認識から、その課題解決の端緒を農業DX等の推進等の中から探ろうとするものです。

冒頭に、農水省の安岡澄人・生産振興審議官が「需要の変化に対応した今後の農業について」の標榜のもと、需要の変化にしっかり対応しさえすれば、わが国の農業は十分に生き残る余地があり、とりわけ有機農業の拡大に期待が高まっている旨のキーノートスピーチがありました。続いて、農業分業の元気な起業家、(株)ナチュラルアートの鈴木誠社長が、日本農業には構造改革が進めば史上稀にみるチャンスが訪れると激励。さらに(株)スカイマティクスの渡邊社長が、新たな農業ではロボット技術やICT等の先端技術を活用することによって、超省力化や高品質生産等が可能になることを説き、それらスマート農業からさらに一歩進んだ農業DXを目指そうと提唱されました。

続いて、以上の講師をパネラーとしたパネルトークやJAHU「お米で健康推進部会」の柏原ゆきよ部会長によるショートスピーチ「日本人の健康長寿の源は『ごはん』にあり!」など盛況な内容に、WEBを含めた参加者は熱気に包まれました。

2. JAH1「健康まちづくり部会」が拠点としている中野区で「中野クリエイティブ祭」が開かれました

「健康」概念によるまちづくりを、中野区をモデルケースとして構築しようとしているJAH1「健康まちづくり部会」は、本年1月、区役所に酒井直人区長、藤井多希子・地域包括ケア推進部会を協会幹部で表敬訪問させて頂いたが、公益社団法人東京青年会議所 中野区委員会はこの度、「健康・医療とメディア芸術」をテーマとして「中野クリエイティブ祭」(協力:日本ヘルスケア協会他)を4月10日(日)午後、中野サンプラザを会場に開催されました。酒井区長、藤井部長出ずっぱりの全企画の中でも注目されたのは、副題「ヘルスリテラシーを学ぶ」の基調講演をされた聖路加国際大学大学院の中山和弘教授によるヘルスリテラシー論。ヘルスリテラシーとは人々の健康を決める力のことであり、その測定方法の開発は様々な進められてきていますが、国際的な共通の尺度によれば、日本人のそれは、諸外国と比較して著しく低いことが明らかだということです。このような尺度を頼りに、わが国のヘルスリテラシーを高めていくことの大切さが痛感されました。



### 3. その他

- (1) 今秋の年次大会が明治大学でリアル開催できる場合の学会開催窓口として、上原征彦副会長のご斡旋により、同大グローバル・ビジネス研究科の橋本雅隆教授に就任頂けることになりました。
- (2) また、年次大会実行委員長は上原副会長が務めて頂けることになりました。
- (3) 野菜部会のY-POPプロジェクトの進捗報告のため、部会幹部が4月1日内閣官房を訪ねました。
- (4) JAH1が協賛した「インターペット2022」が3月31日~4月3日、東京ビッグサイトで開催され、昨年度の約50%増の43,755人の来場者、約42%増の465の出展者を集め成功裡に終了しました。